

里だより

No.406

令和7年11月1日

一発行一

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



ペタンク大会



花火大会



福祉まつい

十一月号もくじ

(ページ)

施設長より.....1

サビ管より.....2

主任より.....3

職員より.....4

事務局より・行事報告.....5

研修報告.....7

サービス向上委員会より.....8

行事予定・

ありがとうございました・

編集後記.....9

施設長より

道具と手入れ



十月二十五日に予定していました『秋の里まつり』は、おかげさまで、無事に開催することが出来ました。コロナウイルスにより中断した年もありましたが、秋に移して、九回目のまつりとなりました。ご来場いただき、誠にありがとうございました。何かと至らぬ点が多々あったかとは存じますが、どうぞご容赦ください。また、『秋の里まつり』の開催にあたり、各方面よりご協力いただきました団体・ボランティアの皆さま、抽選会の協賛をいただいた各企業の皆さまには心よりお礼申し上げます。

大会中の様子は、今回の『里だより』で紹介させていただきます。

さて、以前もさわり程度に書かせていただきましたが、職人は道具を大事にすると聞いたことがあります。例えば、大工は鋸・鉋・ノミなど、理美容師は、ハサミや櫛など、プログラマーだとPCや記録媒体、カメラマンだとカメラやレンズ等々、その職種ごとに必要な道具が存在します。電動やデジタルの時代になっても道具は必要です。それは、仕事としてお客様に向き合う際に大事なものだからです。道具が無ければ、仕事をする事ができません。道具を使えなければ仕事になりません。また、道具の手入れが出来ていなければ、丁寧な仕事が出来ません。使いこなせないと質の高い仕事にはなりません。大工を例に挙げると、手引きの鋸でも、鋸の形や刃の大きさ、厚みも様々で、種類がいくつもあります。木目に対して切るだけでも使い分けが必要です。まっ

すぐ切るには、墨付けや鋸を引く技術も必要ですし、刃も研がなければなりません。電動の丸鋸もガイドの使い方を知らなければ、まっすぐに切れず、壊れていけば仕事にならず、お客様へ納期を待たせてしまうことになります。

では、私たち福祉従事者の道具とは何でしょう。一概に福祉といっても幅が広いので、この問いには多くの回答があると思います。就労支援事業所であれば、作業を行う上での機材になるでしょうか。クリーニング作業であれば大型の洗濯機や乾燥機になるでしょうか。介護中心の分野では、介護機器。ある人は、自身の身体や支援技術、資格と答えるかもしれません。では、そのメンテナンスはできているでしょうか。形あるものは壊れ、身体は老いていくのは世の常ですが、長く使おうとすると、やはりメンテナンスは必要です。せっかく道具があるのに、道具を知らなかったり、使い方を知らないという意味がありません。書類整理にPCが必要だと導入しても、使い方を習得して便利になる人と、習得しようとせず、PC作業は大変だと感じるのでは、同じ作業でも大きく異なります。身体が資本の場合に置き換えても、同じことが言えるのではないのでしょうか。怠惰な生活、不健康な身体ではメンテナンスが出来ていないとは言えません。支援技術はどうでしょう。支援の方法を知っているか。その技術の土台は盤石か。そのうえで必要な人に必要な支援になっているか。技術（道具）を使えているか。メンテナンスとして常に磨けているかなのでしょうか。道具に使われるのではなく、道具を使う側にいたいものです。

施設長 松永 一博

サビ管より

秋の里まつりに向けて



秋の里まつりを十月二十五日（土）に開催します。里だよりがお手元に届くころには里まつりは終わっていますが、担当者を中心に準備を進めている様子についてご紹介します。

里まつり担当者は四名で、五月のゴールデンウィークが終わる頃から、準備がスタートします。はじめに今年度のまつりのコンセプト、テーマを決めていきます。

様々な機会で地域の方々との交流はありますが、より多くの方につくしの里を知っていただきたいという思いを込め、今年度のテーマは、「来て見て知って、つくしの里に全員集合」と決まりました。これからも地域に根差した施設であることを目指すうえでも、わかりやすいテーマになったと思います。次にテーマに基づき、まつりの内容について考えます。利用者さんからもステージの演出、バザー等、意見を聞き出します。太鼓を見たい、歌を聞きたい、漫才を見たい、手品を見たい、唐揚げが食べたい、アイスを食べたい等々、出来るだけ利用者さんの意見を反映できるように話し合いを重ねてきました。

来て見て知ってもらうために、利用者さんにご来場いただいた方で、一緒にステージを盛り上げるような出し物を企画すること、設置ブースでは、つくしの里を紹介するコーナーを設けることとしました。また、食事を楽しんでいただけるよう、キッチンカーの協力、地域の方にも直接入って販売してもらえようようお願いし

ました。

まつり担当者以外の職員も広報、館内装飾、館外装飾、設営、神輿、ゲームコーナー、音響、ボランティア等々、役割を分担し、テーマに合わせた準備を各持ち場で進めます。

余談にはなりますが、まつりの準備を始めると、いつも過去のまつりのことを思い出します。開催時期を秋に移す前は、八月一日の開園記念日に夏祭りとして夜に開催していました。中庭にパイプで櫓を組み、提灯ひとつひとつに電球を入れ、電気配線の設置等もしていました。椅子を運んだり、並べたり、利用者さんも一緒になって準備していたことを思い出します。とても大掛かりな準備でしたが、無事に終わった時の達成感は清々しく、利用者さん、ご家族、職員みんなで喜んでいたことを覚えています。

今年は初の試みとして、ネイルコーナーを設けることとしました。ご利用者にもちよつとしたお洒落を楽しんでもらいたいと資格取得を目指しネイルの勉強をしている職員がおり、今回チャレンジしてみることにしました。ちなみに利用者さんで、毎朝欠かさず化粧をされる方がいます。身だしなみのひとつとして意識されていることは素晴らしいことと思います。美容、健康、趣味など生活や心に潤いを与えるような取り組みも、安らぎや心地よさを求めていくためにはとても大切なことだと思います。

さて、里まつりにご来場いただいた方、今年のまつりはどうでしたか？楽しんでもらえましたでしょうか？少しでも来て見て知ってもらえた秋の里まつりになっていることを願います。

支援課長 今田 有哉

主任より

家族



私事ですが、八月に父が亡くなると共に第二子が誕生しました。何かと目まぐるしい一ヶ月で気持ち追いつきませんでした。父が、今になって、いろいろと実感が湧いてきています。父に生まれてきた息子を一目会わせたかったです、それは叶いませんでした。

息子はおかげ様ですくすくと元気に育っています。第一子の時は、子どもの睡眠状態にとっても苦労したので今回もある程度覚悟はしていましたが、夜も昼もぐっすり寝てくれてとても助かっています。性格も、のほほんとした穏やかな性格で長女の時と子育てが違い過ぎて驚いています。長女は息子が生まれた事にまだ複雑な心境のようで幼児返りではないですが、息子に母をとられたとやきもちを焼いて敵対心の塊のようになってしまっています。長女の気持ちも良くわかるので、いずれは仲良くなってくれたら幸いです。

私が幼いころの記憶では、あまり父の事を覚えていません。父は仕事一筋で時代的にもそういう時代だったのでしょう。小学生に入ってから父が自営業を始め、そこから父との関わりは増えたように感じています。時代的にもバブル絶頂期で父の仕事はとても忙しかった印象があります。その頃の私から見ると父は、力強く、かっこよく、少し怖い存在でした。子どもにとって父親とは大きな存在だと改めて思い返している次第で

す。それから時の流れと共に父親の印象も随分変わっていきました。いろいろ苦労する事もありましたが、亡くなる前の父親は穏やかで仏のような性格になっていました。早くに母を亡くしていた為、一人暮らしでさみしい思いをさせてしまったと思います。皆さんの孫に囲まれて父も幸せだったのではないかと思います。

時代は変わって、私が父となり、果たして私の子どもたちの目には父親である私がどのように見えているのか、とても気になります。私の父親のように力強く頼りになる存在として認識されているのか、不安に思う事もあります。子ども達にとつて、誇れるような父親になれるように日々努力を続けたいと思います。そして、人生において家族の大切さを改めて感じさせられたここ最近の出来事です。

最後に私の子ども達にも、私が亡くなる時には今の私のように父親の事を思い返してくれたらうれしい限りです。

主任支援員 平田 雄一



職員より



秋の里まつりを控え、各所慌ただしく動き回っています。利用者さん・ご家族・そして来場された皆さんに楽しんでもらえる里まつりになるよう、最後まで走り抜けたと思います。

さて、私事です。9月末に「意思決定支援研修」を職員向けに行いました。3月に参加した清水基金の研修内容をもとに、意思決定支援とは何か…から始まり、意思決定支援を行う上で特に大切だと思う事について話を行いました。私は意思決定支援をする上で、まず「その人の事をどれだけ知っているか」が大切だと思います。趣味や嗜好、反対に苦手な事等、どれだけ利用者さんの事を私たち支援者が知っているか、知る姿勢であるか、その情報が支援の基礎となり、意思決定支援にも通じていくのだと思います。

私の所属する生活介護班2班では、ご家族に聞き取りを行っています。外泊・外出時の様子や昔話、本当に沢山の情報を教えていただきました。次のステップは、得た情報を日中の活動や外出に活かしていくことです。様々な体験を通して、利用者さんが生きていく上での選択肢を増やしていければ…と考えています。

また利用者支援は1人ではできません。チームの大切さについても研修で触れましたが、互いに牽制し合い、高め合いながらチームとして成長していけるよう、まずは私自身が現状に満足せず、日々邁進していきたいと思っています。
(支援員 尾崎ア)



最近、嬉しい出来事がありましたので少しお話させていただきます。親戚が集まる場があり、その際に、従兄弟が介護の仕事をしているのを知りました。福祉の道に進んだ理由を聞いた際に「子どもの頃から、(自分が)曾祖父の介護をしている姿をよく見て、常に笑顔で優しく接する姿が印象的だった。それからなんとなく『将来は自分も、人の役に立つ仕事がしたい』と思うようになった」との事でした。

そんな風に思ってくれていたとは、全然知りませんでした。ただ単純に『お年寄りが好き』という気持ちだけで、その姿が、知らないところで誰かの心を動かしていたのだと知って、照れくさいけど、とても嬉しかったです。

障がいのある方は、言葉で気持ちを伝えるのが難しい方も少なくありません。だからこそ、日々のわずかな表情の変化やしぐさから思いを汲み取り、利用者様一人ひとりの可能性を最大限に引き出せるような支援を目指していきたいと思っています。
(支援員 井)

事務局より



2025 年が始まってあっという間に 10 月になりました。絶賛、秋の里まつりの準備で慌ただしく動いていますが、それが終わるとクリスマスに餅つき大会と行事が立て続けにあり、2026 年もいつの間にか始まることでしょう。今年中に終わらせることはやっておきたいところですが、「明日にしよう」や「来週でいいや」と思い、ついつい先延ばしにしています。毎年のことではありますが、今年こそは時間を有効に使って身の回りの整理を今年中に終わらせたいと意気込んでいます!!

前回、私はバイクのことを少しお話しましたので、その続きを少々…。

先日、父と弟と一緒に早朝から阿蘇へツーリングに行きました。夏場は 5 分乗っているだけで汗だくになっていたのに、この時は厚手の防寒着が必要くらい寒かったです。あっという間に冬になることを実感しました。今のうちにたくさん乗っておこうと思いました。おすすめのツーリングコースがあれば教えてもらえると嬉しいです。(事務員 井手)

行事報告

※ 9/21 (日) ~ 10/20 (月) の実施分について報告いたします

★利用者スポーツ (ペタンク) 大会【10 月 5 日 (日) ecowin 宇土アリーナ】

今年は A チーム・B チームの 2 組で出場し、それぞれがチームワークを発揮して頑張りました。A チームは 2 勝 2 敗、B チームは 1 勝 1 敗という結果となりました。勝利に一喜一憂しながらも、仲間を応援する声や笑顔があふれる 1 日となり、利用者さん同士の交流もより深まったと思います。大会を通して、日頃の練習の成果を感じられると共に、最後まで諦めずに取り組む姿がとても印象的でした。

事故やけがもなく、無事に大会を終えることが出来ました。来年もまた元気に参加し、さらに良い成績を目指して頑張っていたきたいです。
(支援員 伊藤)



★花火大会【10月17日（金）つくしの里】

10月に入りやっと夕方は涼しくなりました。本来ならば夏の風物詩ではありますが、遅ればせながら「花火大会」を行いました。利用者さんが外に出てそれぞれが手持ち花火を楽しめました。その後、小規模ながら噴き出し花火を見学され「きれいかね」「たのしかね」等の言葉も頂きました。

短い時間ではありましたが、参加された皆さんが笑顔で過ごされていた為、やって良かったと思いました。また楽しめるイベントを委員会で考えていきます。（主任支援員 山中）



★大津町福祉まつり【10月19日（日）大津町役場周辺】

昨年に引き続き、焼きそばの模擬売店として参加しました。物価高騰の折ではありますが、子供たちがお小遣いで昼御飯を買えるようにと、1パック350円で400食を準備し、購入された方からは「美味しい」との声を頂き、大変励みになりました。

つくしの里からは、利用者さん15名と職員5名でまつりに遊びに来られ、気に入った模擬売店で思い思いに昼食等を購入し食べました。楽しんでいる利用者さんの笑顔を見るたびに、とても嬉しくなりました。

当日は生憎の曇り空で、いつから雨が降り出すのかと気を揉んでいましたが、最後まで雨が降る事もなく、施設長を始め8名の職員、学生ボランティア2名と最後まで楽しく販売を行い13:00過ぎには400食を完売する事ができました。誰彼となく皆が拍手をして、「今年も頑張ったね!」とお互いに声を掛け合い、達成感を味わう事が出来ました。

（支援員 後藤と）



施設 PR 委員会 今月の 1 枚！

調理実習にてプリンアラモードを作りました！

おいしくできました！



研修報告

※ 9/21（日）～10/20（月）の研修分について報告いたします

◆九州地区知的障害関係施設長等研修大会【10月2日（木）～3日（金）鹿児島サンロイヤルホテル】

1 日目は、次期報酬改定へ向けた講義がありました。地域移行を推進している中でグループホームが一気に増え、質が確保されていない事例も多いことや、障害者支援施設においては重度化・高齢化が進み、地域移行自体が困難なケースも多くなっているという内容でした。今後の障害者施策の展望を見据え、次期報酬改定に向けた積み残し課題や地域生活支援を踏まえた今後の障害者福祉の動向を注視していきたいと思えます。

2 日目の第 1 分科会では、「つなぐ」をテーマに、社会福祉法人の役割についての講義と鼎談がありました。事例では、入院することがあっても基本的には地域での生活が中心という考え方で、地域の中の病院としての位置づけ、また、病院の中のコンビニエンスストアが就労継続支援 B 型の訓練の場になっているなど、つながりを重視した話を聞くことができました。

第 2 分科会では、技術とつなぐ業界の DX 化をテーマに、2040 年問題、また、働き手が減少し、人手不足に直面していく中で、DX 推進が基本のキになるという内容でした。より少ない「人材・コスト」でより多くの「付加価値を創出」するための生産性の向上。そのための絶対条件のベースは電子機器の普及であり、次世代や外国人材の活躍を踏まえスマホ、タブレットが主役になっていくという内容でした。また、事例発表でも ICT を随時取り入れている施設の話も聞くことができました。その中で、生産性の向上のためには、業務改善の推進と人口減少に向けた社会対応がカギを握るとのことでした。当事業所でも、利用者さんの現状、これからの利用者像を考えていく中で、マッチする福祉機器は何なのか、職場の環境改善にマッチしたデジタル化は何なのかを、中長期に考えていく必要があると再認識することができました。それぞれの専門性や役割、背景や求められることを相互理解して、期待値のズレや認識差が生まれないようにしたいと思います。（支援係長 竹下）

◆熊本県相談支援従事者初任者研修【10月7日（火）～8日（水）くまもと県民交流館パレア】

10月から12月にかけて相談支援専門員の初任者研修を受講させていただきます。演習5日間と実習を2回行い、相談支援専門員が果たす役割や相談支援プロセスやサービス等利用計画書の作成方法などを学んでいきます。

今回の演習は事例を用いて相談支援プロセスの一連の流れをグループ討議で行いながら体験していききました。相談支援は「本人の思い」から始まります。まずは本人や関係者から表出された言葉を受け止め、そこから本人の夢や希望の実現や課題解決に向け必要な情報を収集し整理・分析していききます。「本人の思い」を中心に意思決定支援を意識しながらアセスメントを行っていく事が重要になります。計画作成では本人の言葉や思いが明確に反映されているか、本人が希望を持てる計画になっているか、本人の強みや地域とのつながりを持った計画になっているかが重要になってきます。

今回82名の受講生と共に、約3か月間の研修を行っていききます。同じ目標を持つ仲間がいる事がとても心強く、様々な視点で意見交換を行えるため、私の中に無い考えや意見に触れる事ができ有意義な時間を過ごしています。多角的な視点から物事を見る事を心掛け、自分が決めた対象利用者さんのサービス等利用計画書の作成を行っていききます。

（支援員 田中）

◆看護師・栄養士・生活支援員等研修会【10月20日（月）くまもと県民交流館パレア】

午前中は、『心と身体をつなぐ「その人らしい食事」とは』のテーマに基づいて、食事で大変な事について学びました。自分の手で食べることで頭を使うため脳の機能を維持できること。その人にあった形態はもちろんのことですが、ミキサー食でも見た目が大事。喉ごしはプッチンプリン状が一番よいこと。すべてのメニューをプリン状にして、見た目は焼肉、だご汁、焼き魚の写真もあり、これならメニューは何かすぐに分かるし、食欲もわくのではないかと思います。食事＝（イコール）見た目だと改めて思いました。

午後からは障害者支援施設における健康管理と高齢期支援についての講義がありました。利用者さんが福祉施設で暮らす意味を考えさせられました。健康管理、安全管理は当たり前、利用者さんがいかに人生を豊かに幸せにできるか追及していくことが大事だと再認識できました。看護師という同じ立場で仕事をされている方たちとのグループワークもあり、情報交換やお互いの悩みなども話すことができ充実した研修になりました。

（看護師 松村）

サービス向上委員会より

■ 地域交流【主任支援員 中尾・支援員 後藤^h・池崎】

毎月、3班と4班で交代して、近隣の施設の三気の里さんが運営するパン屋「BE TREE」に買い物に行っています。元気に店員さんに挨拶をして美味しいパンを選ぶ利用者さんが楽しそうでとても印象的です。

また、2か月に1回ほどの頻度で利用者さんと職員で小学校の見守り運動にも行っています。利用者さんも緊張しながらではありますが、子供たちの安全を守る為に頑張っておられます。他にも、定期的な交流をしており、夏季は園の畑で採れたジャガイモを利用者さんよりプレゼントしました。今後も地域との繋がりを大切にしてより良い交流を行っていききます。



行事予定



☆ 面談・通帳確認 (つくしの里)

期 日：11月1日(土)～30日(日)

内 容：日程は担当職員より電話でご連絡いたします。



☆ インフルエンザ予防接種・利用者内科健診 (つくしの里)

期 日：11月21日(金)

内 容：10月30日に予定しておりましたが、コロナウイルス感染拡大防止のため延期となりました。



☆ やさしいっぱいコンサート (大津町生涯学習センター文化ホール)

期 日：11月23日(日) 開場：午後1時00分

内 容：保護者会様主催のコンサートです。今年は大津少年少女合唱団が来てくださいます。皆で歌を楽しみたいと思います♪

ありがとうございました

今月の掲載分は、

令和七年九月二十一日～

令和七年十月二十日です



【寄付・寄贈】

・井本チカ子様

・清田すま子様

・竹山洋子様

・藤田孝志様

・光永順子様

【ボランティア】

・村上和洋様

・丸山典子様

・木本ふじ子様

・高宗良子様

・田上修二様

・三上貴宏様

・山口静美様

誠にありがとうございました。

利用者さんの為に使用させて頂きます。



※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意して、記事の記載・確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら、何卒ご容赦していただきたく存じます。

編集後記

秋まつりが終わった途端、冬の寒さが到来し、冷え込み始めました。夜は厚手の服が手放せません。利用者さんも急いで衣替えを済ませました。寒さ対策をしつかりして冬を満喫していきます。

～お知らせ～

くまもと障がい者芸術展に
今年も利用者さんの作品を出展します！

場所：熊本県立美術館分館4階【展示室3】

期間：11月18日(火)～11月24日(月・祝)

お時間ありましたら、是非ご覧ください♪

